令和5年9月1日

令和５年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和5年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　８３人

②　算数　　８３人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

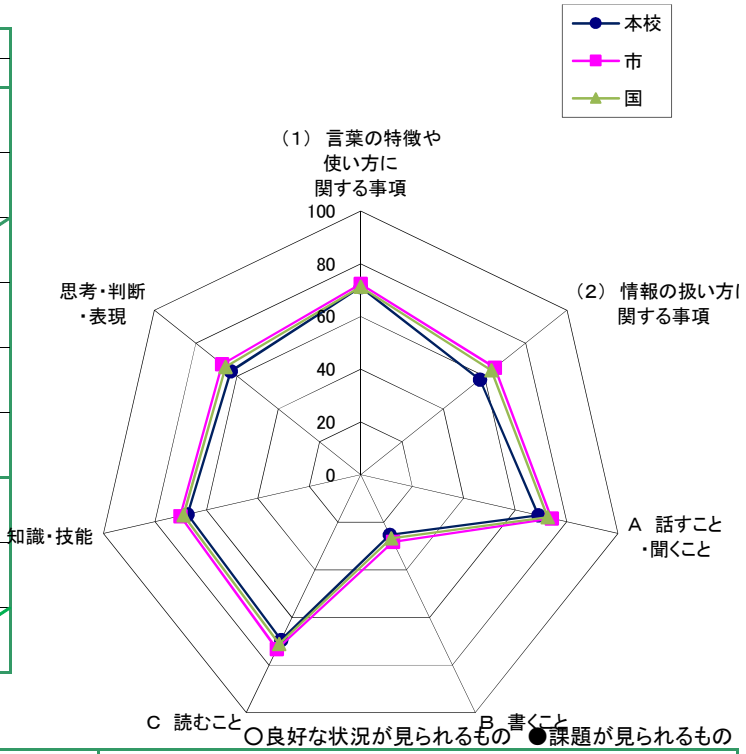
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況
【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.1	72.3	71.2
	（2） 情報の扱い方に関する事項	57.8	65.0	63.4
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	69.1	74.2	72.6
	B 書くこと	25.3	28.2	26.7
	C 読むこと	69.5	73.3	71.2
観点	知識・技能	67.3	70.2	68.9
	思考・判断・表現	63.0	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

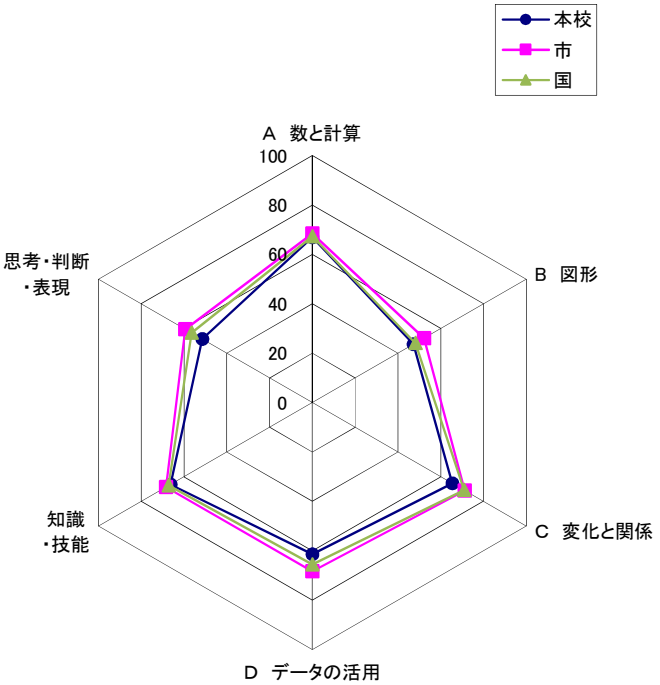
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	●本領域の平均正答率は71．1%で，国の正答率と同程度であるが，市の正答率を1．2ポイント下回った。 ○「文章の種類とその特徴について理解しているかどうか」の正答率は85．5%で，国の正答率を5．7ポイント上回った。 ●「日常よく使われる敬語を理解しているかどうか」の正答率は47．0%で，国の正答率を10．6ポイント下回った。	・日常でよく使われる敬語の使い方について理解できるようにする。その際，相手と自分の関係を意識しながら，尊敬語や謙譲語などの敬語について使うことが出来るよう指導していく。また，国語の授業だけでなく，学校生活全体を通して，児童の日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れさせていく。
（2）情報の扱い方に関する事項	●本領域の平均正答率は57．8%で，国の正答率を5．6ポイント下回った。 ○「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうか」の無回答率は0.0%であった。 ●「情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうか」の正答率は，56．6%で，国の正答率を5．4ポイント下回った。	・学級活動で行うアンケートや各教科で使用したグラフなどで資料の読み取り方法を指導する。また，目的に応じて情報を取捨選択したり，整理したりする機会を設ける。 ・図表やグラフ，写真や挿絵などを文章と結び付けることを意識させる。図表と文章のどの部分が結びつくのかを明らかにさせるよう指導をする。
A 話すこと・聞くこと	●本領域の平均正答率は69．1%で，国の正答率を3．5ポイント下回った。 ○「必要なことを質問しながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる」の平均正答率は74．7%で，国の正答率を1．1ポイント上回った。 ●「目的や意図に応じ，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめることができる」の平均正答率は国と同程度であったが，無回答率が16．9%であった。	・学級活動，各教科における授業等でペア活動や話し合い活動を積極的に取り入れていき，自分の考えを発表するだけでなく，必要なことを記録したり質問したりしながら聞くように指導していく。また，自分の考えと相手の考えを比較して考えさせたり，相手の考えを基に，自分の考えを文章で端的にまとめたりする経験もさせていく。
B 書くこと	●本領域の平均正答率は25．3%で，国の正答率を1．4ポイント下回った。 ●「図表やグラフなどを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」の無解答率は3．6%であった。	・基本的なグラフの読み取り方を確認するとともに，設問に提示されている条件を確認し，筋道の通った首尾一貫した展開になる文章の書き方を指導する。学級活動，各教科における授業等で「原因と結果」・「疑問と解決」を短文でまとめる経験をさせていく。 ・自分の考えを文章で伝える機会を積極的に取り入れ，書くことに慣れるよう指導していく。
C 読むこと	●本領域の平均正答率は69．5%で，国の正答率を1．7ポイント下回った。 ●「目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することができる」の平均正答率は83．1%で，国の正答率を6．9ポイント下回った。 ○「文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめることができる」の平均正答率は60．2%で，国の正答率を4．0ポイント上回った。	・要約をする際には，繰り返し出てくる言葉に着目させ，どんなことが書かれているのか，考えられるように指導する。 ・自分の意見を書く問題において，条件を全て満たせなかった児童も多かったことから，条件のある文を書く際には，全ての条件を網羅できるよう日頃から指導をし，見直しの際に，自分で確認できるようにする。

宇都宮市立横川西小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.9	68.4	67.3
	B 図形	47.3	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	65.4	71.2	70.9
	D データの活用	61.4	68.3	65.5
観点	知識・技能	66.3	68.4	67.2
	思考・判断・表現	51.5	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	○小数の計算問題の正答率は県よりも6ポイント，全国よりも5ポイント高い結果となっている。 ●加減乗除が混同している問題の正答率が県，全国よりも4ポイント低い。	・問題文を読み取り立式させるだけでなく，問題文のどの部分を根拠にその式になったのかを発表させたり，記述させたりする。 ・ただ計算するのではなく，簡単な計算方法を正しく理解し，活用できるように場面に応じて指導していく。 ・加減乗除が混合している問題の計算方法を授業を通して再確認していく。
B　図形	○台形の性質を理解しているかに関して，県，全国の割合をどちらも2ポイント以上上回っている。 ●三角形の底辺と面積の関係に関する問題は，県の正答率より8ポイント下回っている。 ●正三角形の性質に関する問題は，県の正答率よりも2ポイント下回っている。	・三角形の性質を考えたり面積を求めたりする際に，解法を教授するのではなく，実物を用意し，操作しながら考える活動を取り入れていく。 ・授業で既習内容の復習を取り入れ，学年を越えた単元の定着を図っていく。
C　変化と関係	○無回答の割合が0であり，どの問題にもあきらめずに取り組む姿勢がある。 ●比例の関係に関する問題は，県よりも12ポイント，全国よりも14ポイント低くなっている。 ●割合の問題は県，全国とほぼ同じである。	・百分率で表された割合に関する知識は身に付いている。しかし正答率は半分を下回っている。このことから基礎を定着させるために朝の学習や宿題，学年の復習で取り入れるようにし，知識だけでなく本質を捉えられるように指導していく。 ・比例では，計算で求めるだけでなく，表や図，グラフを用いながら考えられるように授業でも活用していく。
D　データの活用	○問題文の意味を正しく理解し，解くことができている。 ●棒グラフを読み取る問題の正答率が県の平均よりも16ポイント低い。 ●無回答の割合が13%で，他の問題よりも多い。	・簡単な棒グラフの読み取り方を習熟度に合わせて指導していき，理解した上で少しずつ難しい問題に取り組むようにしていく。 ・グラフを書く，読み取るだけでなく，どのような時に活用したほうがよいのか考え，適切な用い方ができるように指導していく。 ・諦めずに問題に取り組めるように，個人のできたわかったを大切にした授業を行う。

宇都宮市立横川西小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対して児童の肯定的回答は，86．8%で市や全国の割合よりも高く，特に県より7．3ポイント高い。さらに「道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」児童の肯定的回答は90．3%である。こうしたことから道徳の授業の中で，様々な考えや意見をお互いに認め合い，話し合いながら共感しあっていると推測される。今後も道徳の授業に限らず，学級活動の場にも機会を広げることによって，さらに児童が一人一人の違いを認識しながらよりよい学校生活に生かせるようにしたい。

○「算数の勉強は好きですか」に対しての児童の肯定的回答は，66．2%と県の割合より3．6ポイント高い。また，「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対しての児童の肯定的回答も82．0%で全国の割合とほぼ同じである。「算数の勉強は大切だと思いますか」に対しての児童の肯定的回答は97．6%と高い。このことから，算数の学習に対する関心が高く，授業が分かると実感できている児童が多いことが分かった。今後も，習熟度別学習を継続し，分かる授業の展開や個に合ったきめ細やかな指導を心掛けていきたい。また，計算の反復練習などを継続し，基礎基本の充実を図っていきたい。

●「学校の，授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」に対しての肯定的割合は36．1%と低い。「5年生までに受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使っていますか」に対しての肯定的回答は8．4%と低い。このことから，児童がPC・タブレットを活用する機会が少ない，または授業に生かされていないことが分かった。今後は，授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用したペアやミニグループでの話合いの場を設けたり，目的に応じて自分の意見を交換したりする学習を取り入れ，学習活動全体で児童がPC・タブレットなどのICT機器を活用して表現できるよう，取り組んできたい。

●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」に対しての児童の回答では，学習時間に前向きに取り組んでいると回答した児童は26．5%である。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答は85．5%であった。このことから，家庭学習のヒント集や強化週間などの取り組みにより，自主学習に毎日取り組める児童が増えてきているのが分かった。しかし，約15%の児童は，目安の時間に取り組めていなかったり学習習慣が定着していなかったりすることも分かった。今後は、家庭学習の充実が図れるよう，取り組みを紹介したりヒント集をさらに活用したりして中学校へ向けて自主的に学習できるようにしていきたい。

宇都宮市立横川西小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学びを実感できる授業づくり	・実生活と結びついた興味をひく学習課題の提示や問題を焦点化した「めあて」の設定，自分の言葉で説明する場の設定，授業の振り返りなど，宇都宮モデルをもとにした授業のデザインの工夫	・算数への興味関心や授業の理解度に関する質問項目に対する肯定割合は県や全国と比較して高い傾向にあり，算数の学習に対する関心が高く，授業が分かると実感できている児童が多いことが分かる。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度が市や全国の割合よりも低い傾向にあることが分かった。	・ICT機器を活用した授業展開の工夫をする。	・ICT機器の活用法について，具体的な事例を紹介したり演習を取り入れながらの研修を行い，教員がICT機器についての技能を高め，より効果的な指導を行うことができるようにする。